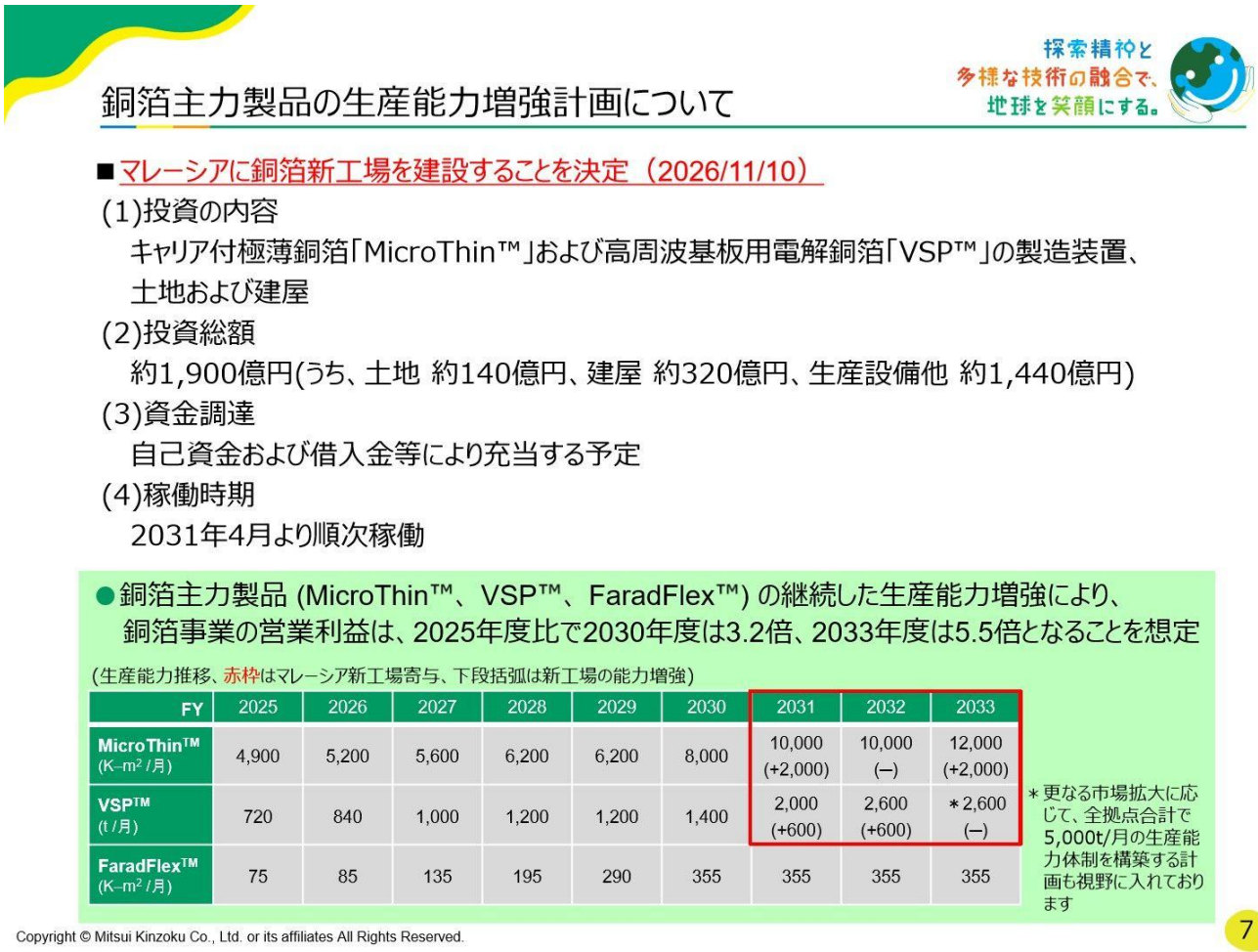
三井金属

2027年3月期第2四半期決算説明会 議事録

参考資料:2027年3月期第2四半期決算説明資料
LinkClick.aspx
（補足） PKG： パッケージ基板

■ご説明



決算説明資料7ページをご参照ください。

・当社は本日の取締役会にて総額約1,900億円を投じてマレーシアに新工場を建設し、MicroThin™およびVSP™の生産能力を増強することを決定いたしました。この目的は、AI・半導体市場の継続的な急成長が見込まれる中、お客様に対する当社銅箔製品の安定供給を継続するためであります。本計画では、市場の先行指標とリスク管理をバランスさせながら、段階的に投資を実行いたします。

・投資の第1弾は、土地の購入と建屋建設、MicroThin™およびVSP™の生産設備を導入し、2031年度よりMicroThin™は月当たり1,000万平米、VSP™は月当たり2,000トンの生産能力体制を確立します。第2弾として、2033年度までにMicroThin™は月当たり1,200万平米、VSP™は月当たり2,600トンの生産能力体制を確立するものであります。

・資金調達は、自己資金と借入金等を充当する予定で、既に発表した2030年度までの投資と本投資により、銅箔事業の営業利益は、2025年度比で2030年度は3.2倍、2033年度は5.5倍となることを想定しております。

2026年度第2四半期（中間期）決算

探索精神と
多様な技術の融合で、
地球を笑顔にする。

・2026年度上期の前年同期比では、機能材料セグメントで極薄銅箔MicroThin™やAIサーバー向け電解銅箔VSP™など主要製品の販売量が増加したことや、金属セグメントで為替の円安、金属価格が上回って推移したことおよびそれに伴う在庫要因の好転等により、増収増益となった。

・通期予想の前回予想比は、機能材料セグメントで引き続き主要製品の販売量が好調に推移することから、金属セグメントで一部の金属価格が下落傾向にある影響などを織り込むも、全社合計では増収増益を見込む。なお、当期純利益は、退職給付制度改定に伴う特別損失計上により悪化を見込む。

（単位： 億円）

	上期実績			通期予想		
	2026 実績	2025 実績	増減 (26-25)	2026 今回予想	2026 前回予想	増減 (今回-前回)
売上高	4,311	3,643	668 *18.3%*	8,750	8,500	250 *2.9%*
営業利益	575	398	178 *44.7%*	990	940	50 *5.3%*
経常利益	609	391	218 *55.7%*	1,040	1,000	40 *4.0%*
親会社株主に帰属する当期純利益	395	190	205 *107.6%*	780	800	-20 *-2.5%*

Copyright © Mitsui Kinzoku Co., Ltd. or its affiliates All Rights Reserved.

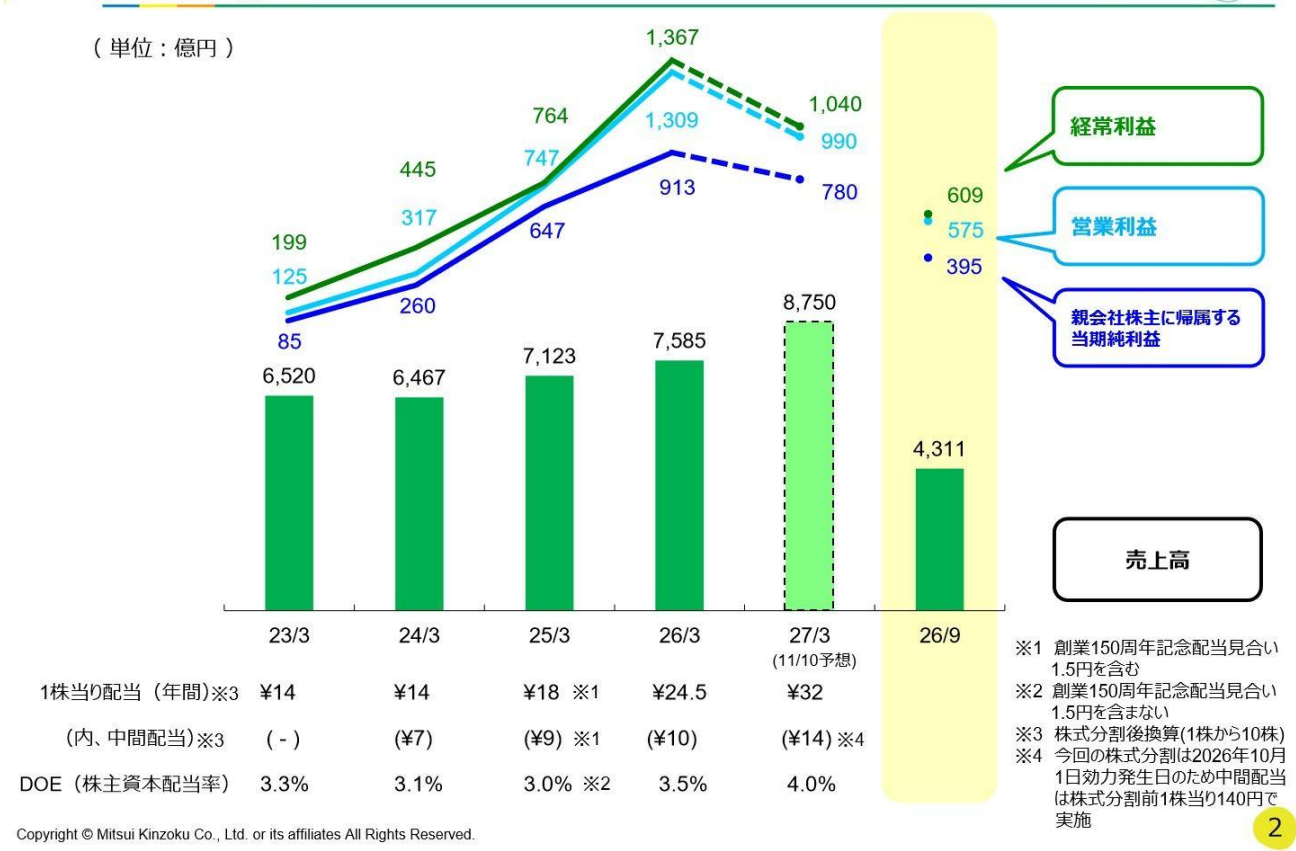
決算説明資料1ページをご覧ください。

・2027年3月期第2四半期の売上高は4,311億円、営業利益は575億円、経常利益は609億円、親会社株主に帰属する当期純利益は395億円となりました。前年同期比で、売上高では、前年度のアクトグループ売却による減収等はあるものの、MicroThin™やAIサーバー向け電解銅箔VSP™など機能材料セグメントの主要製品の販売量が増加したことや、金属セグメントでの非鉄金属相場平均価格の上昇による増収によって、当社グループ全体の売上高は668億円の増収となりました。

・利益につきましては、機能材料セグメントの銅箔主要製品の販売量増加や、販売価格改定によるマージン改善、インジウム価格変動による在庫要因の好転等により、営業利益は前年同期に比べ178億円の増益。経常利益も、持分法投資損益改善が加わり218億円の増益となりました。当期純利益は、当社退職給付制度改定に伴う確定給付企業年金制度の全部および退職一時金制度の一部を確定拠出年金制度に移行したことによる終了損64億円を特別損失に計上した一方で、前年同期の三井金属アクトの株式譲渡損失190億円の剥落、税金費用増加136億円等により、前年同期に比べ205億円の増益となりました。

・2027年3月期の通期予想につきましては、上期の実績を反映し下期の事業動向などを踏まえて見直した結果、売上高8,750億円、営業利益990億円、経常利益1,040億円を見込み、前回8月7日に開示しました通期予想を上回りますが、当期純利益は退職給付制度終了損計上の影響で780億円と、前回予想を20億円下回る見込みです。

・下期の価格前提につきましては、LME亜鉛価格3,800ドル/トン、LME鉛価格1,900ドル/トン、LME銅価格658セント/ポンド、為替は1ドル155円としております。



決算説明資料2ページをご覧ください。

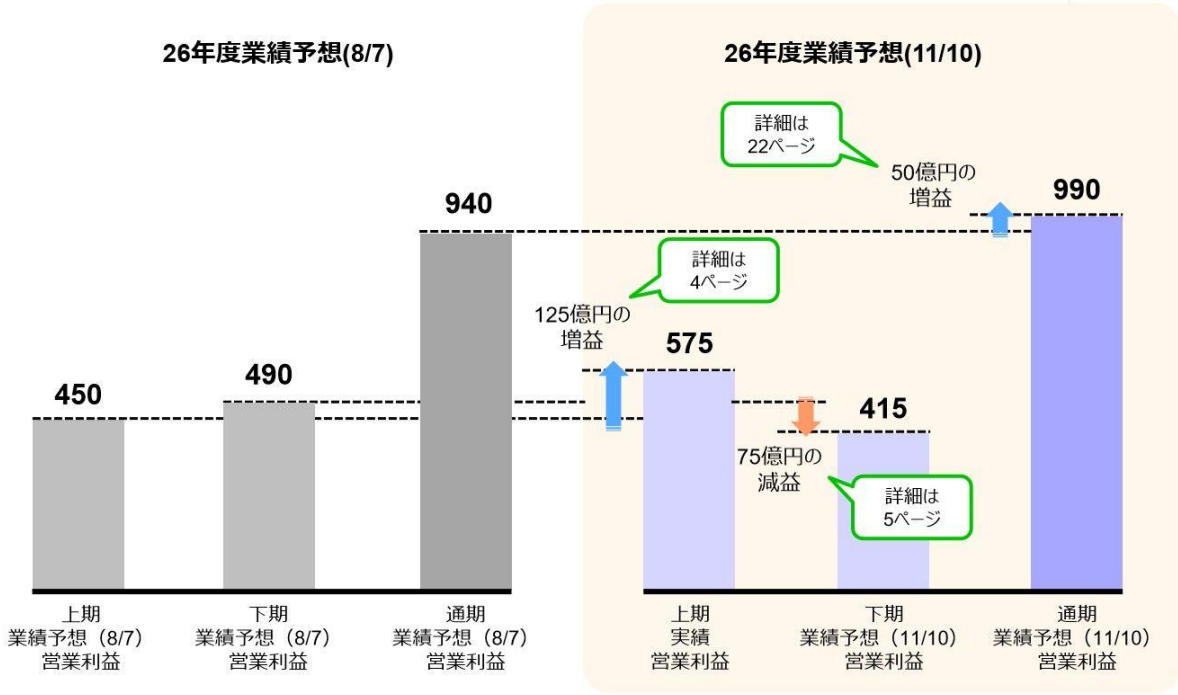
・グラフの下に記載をしております配当につきましては、株主還元の充実を図るため、DOE(連結株主資本配当率)を3.5%から4.0%に引き上げました。この結果、本日「配当方針の変更および配当予想の修正に関するお知らせ」にて開示しました通り、期末配当予想を株式分割後換算で14円から4円増額し18円とし、中間配当分割後換算14円と合わせて年間32円としております。

26年度営業利益見込

探索精神と
多様な技術の融合で、
地球を笑顔にする。

26年度営業利益は、前回業績予想比で50億円の増益を見込む

（単位：億円）



Copyright © Mitsui Kinzoku Co., Ltd. or its affiliates All Rights Reserved.

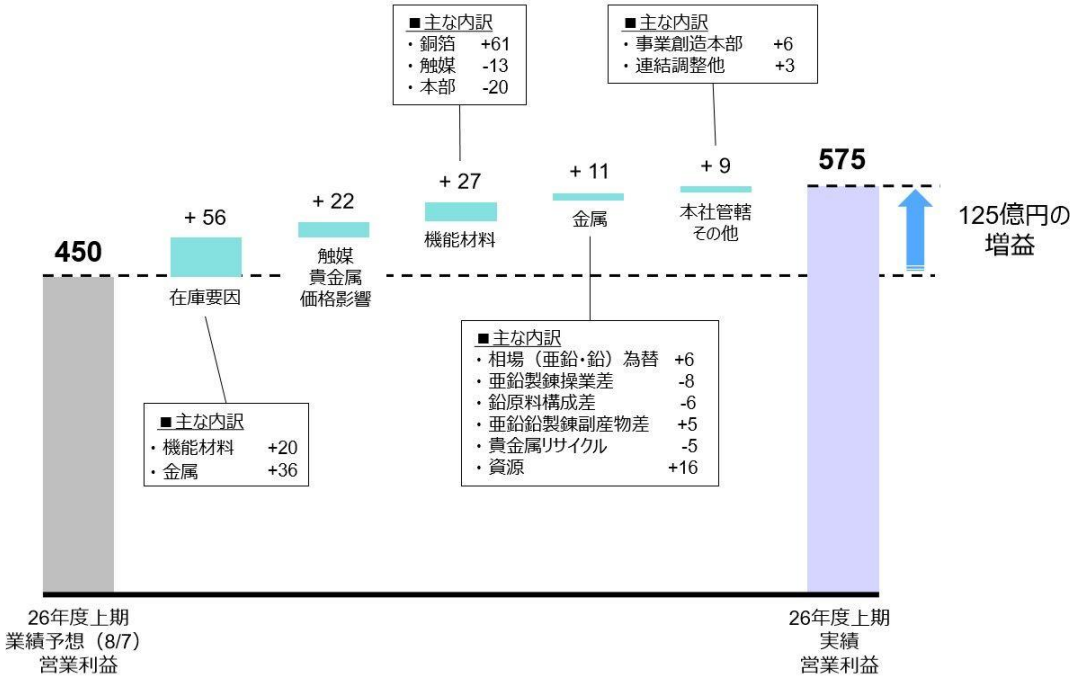
資料3ページをご覧ください。

・26年度の営業利益につきまして、上期は前回業績予想比で125億円増益の575億円、下期は75億円減益の415億円、通期では50億円増益の990億円を見込んでおります。

26年度上期営業利益（対前回業績予想）

探索精神と
多様な技術の融合で、
地球を笑顔にする。

（単位：億円）



Copyright © Mitsui Kinzoku Co., Ltd. or its affiliates All Rights Reserved.

資料4ページをご覧ください。

・上期営業利益は、金属価格の上昇などにより在庫要因および触媒貴金属価格影響が好転しており、各事業セグメントでも増益となっております。

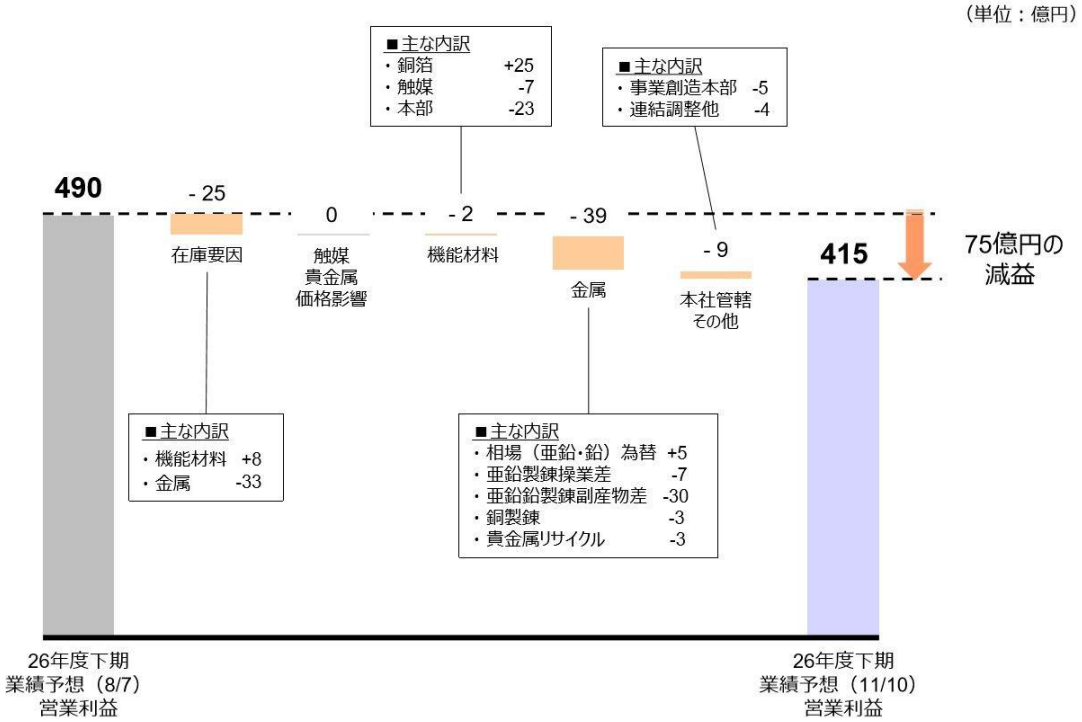
・機能材料セグメントでは、銅箔の好調な販売や価格上昇に加え、一過性要因としてMicroThin™の過年度売上精算28億円の計上により、銅箔事業で61億円の増益、触媒は13億円の減益の他、本部コスト増も含めて27億円の増益となりました。

・金属セグメントでは、概ね金属相場が堅調に推移し、資源部門での操業が好調なことから11億円の増益となりました。

・本社管轄その他では9億円の増益となり、トータルでは125億円の増益となっております。

26年度下期営業利益見込（対前回業績予想）

探索精神と
多様な技術の融合で、
地球を笑顔にする。



Copyright © Mitsui Kinzoku Co., Ltd. or its affiliates All Rights Reserved.

資料5ページをご覧ください。

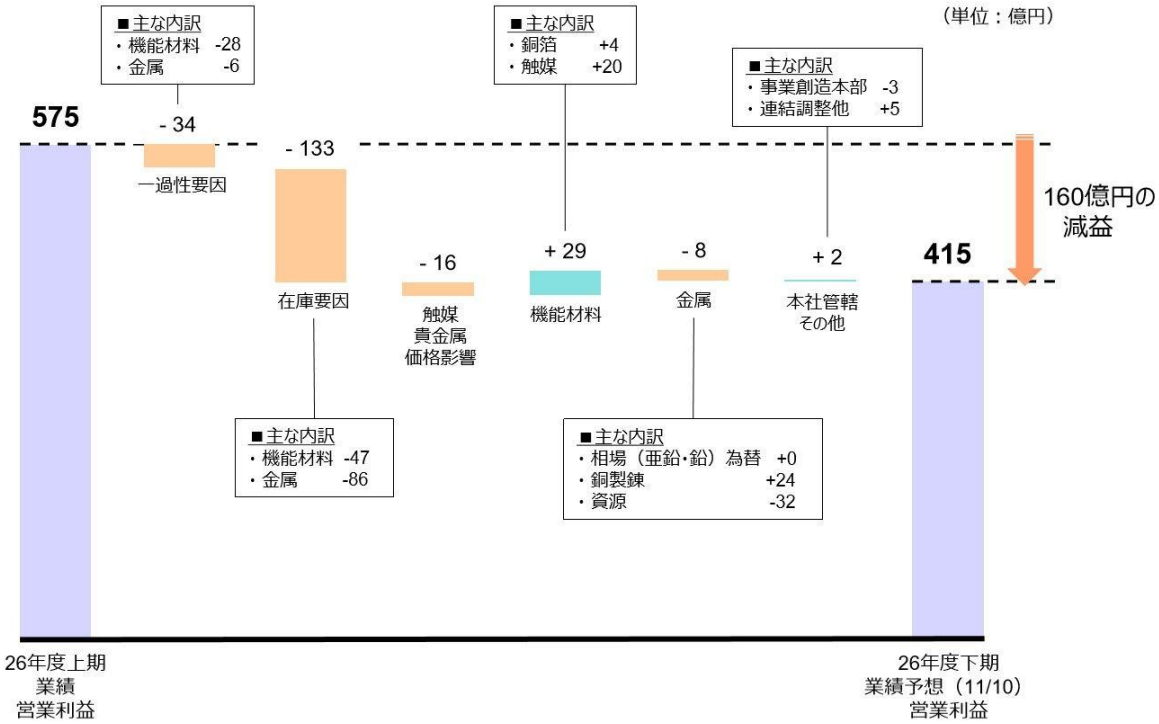
・営業利益では、グラフ右の赤い矢印の通り75億円の減益を見込んでおります。

・価格前提は、亜鉛価格トン当たり3,800ドル、為替を155円と見込んでおりますが、在庫要因や銀相場が下落することなどによる製錬副産物差などにより、金属セグメントの業績が悪化する見込みとしております。

・機能材料セグメントでは、銅箔事業は引き続きMicroThin™が好調で増益を見込んでおりますが、本部コスト増などにより相殺されております。

26年度下期営業利益見込（対26年度上期営業利益）

探索精神と
多様な技術の融合で、
地球を笑顔にする。



Copyright © Mitsui Kinzoku Co., Ltd. or its affiliates All Rights Reserved.

続いて、資料6ページをご覧ください。

・下期営業利益は415億円と、上期実績の営業利益575億円より160億円の減益を見込んでおります。

・一過性要因として、上期銅箔の過年度売上精算等の剥落でマイナス28億円。在庫要因として、上期のプラスの在庫要因の剥落と下期のマイナスの在庫要因の見込みでマイナス133億円。

・機能材料セグメントでは、銅箔は実力で上期並みを維持、触媒はコスト減等で増益を見込んでおります。

・金属セグメントでは、為替影響はフラット。また下期に向けて銅製錬の操業回復による増益はあるも、資源部門の出荷時期ズレ等による損益差で相殺する形となっております。

営業外・特別損益

探索精神と
多様な技術の融合で、
地球を笑顔にする。

（単位：億円）

	上期			下期			通期		
	2026 実績	2025 実績	増減 (26-25)	2026 今回予想	2025 実績	増減 (26-25)	2026 今回予想	2025 実績	増減 (26-25)
金利収支	-5	-9	4	-6	-5	-1	-12	-14	2
受取配当金	3	5	-2	0	0	0	3	5	-2
持分法投資損益	52	14	38	16	60	-44	68	74	-5
為替差損益	-17	-18	1	0	4	-4	-17	-14	-3
その他	1	2	-1	6	6	1	7	8	-1
営業外損益 計	**34**	**-6**	**40**	**16**	**65**	**-48**	**50**	**58**	**-8**
固定資産除売却	-7	-8	1	-9	-20	12	-16	-28	12
有価証券売却損益	10	2	8	0	0	0	10	3	8
関係会社株式売却損益	14	21	-7	0	-190	190	14	-169	183
その他引当金繰入額	0	-188	188	0	188	-188	0	0	0
退職給付制度終了損	-64	0	-64	0	0	0	-64	0	-64
助成金収入	0	0	0	56	1	55	56	1	55
その他	-6	10	-16	-5	-9	3	-11	1	-12
特別損益 計	**-52**	**-163**	**111**	**42**	**-30**	**71**	**-11**	**-193**	**182**

Copyright © Mitsui Kinzoku Co., Ltd. or its affiliates All Rights Reserved.

資料12ページの営業外・特別損益をご覧ください。

・営業外損益につきましては、通年でほぼ前年同期並みとなっております。

・特別損益については、前年同期の三井金属アクトの株式譲渡に伴う特別損失計上剥落の一方、当第2四半期における退職給付制度終了損64億円が大きな差となっております。

主要製品の動向

探索精神と
多様な技術の融合で、
地球を笑顔にする。

			2024					2025					2026予想(11/10)					2026予想(8/7)		
			Q1	Q2	Q3	Q4	年間	Q1	Q2	Q3	Q4	年間	Q1	Q2	上期	下期予想	通期予想	上期予想	下期予想	通期予想
機能材料	電解銅箔	販売量 t/月	1,680	1,650	1,680	1,600	1,650	1,750	1,980	1,970	1,700	1,850	1,750	1,670	1,710	1,630	1,670	1,750	1,740	1,750
	VSP™	販売量 t/月	(240)	(390)	(420)	(430)	(370)	(510)	(560)	(550)	(570)	(550)	(660)	(730)	(700)	(760)	(730)	(690)	(730)	(710)
	MicroThin™ (a) + (b)	販売量 k-m2/月	2,480	2,650	2,220	2,060	2,350	3,120	3,480	3,430	3,610	3,410	4,070	4,440	4,250	4,390	4,320	4,290	4,230	4,260
	HDI向け MicroThin™ (a)	販売量 k-m2/月	(600)	(530)	(470)	(430)	(510)	(530)	(650)	(690)	(470)	(590)	(550)	(640)	(590)	(530)	(560)	(560)	(560)	(560)
	PKG向け MicroThin™ (b)	販売量 k-m2/月	(1,880)	(2,120)	(1,750)	(1,630)	(1,840)	(2,590)	(2,830)	(2,740)	(3,140)	(2,820)	(3,520)	(3,800)	(3,660)	(3,860)	(3,760)	(3,730)	(3,670)	(3,700)
	FaradFlex™	販売量 k-m2/月	30	40	40	40	40	40	40	50	60	50	70	80	70	80	80	70	80	80
	二輪触媒	販売量 指数	100	100	94	92	97	97	103	101	103	101	102	106	104	102	103	104	99	102
	インド向け	販売量 指数	(100)	(101)	(87)	(83)	(93)	(87)	(98)	(97)	(101)	(96)	(98)	(100)	(99)	(97)	(98)	(101)	(95)	(98)
	インドネシア向け	販売量 指数	(100)	(123)	(110)	(117)	(112)	(103)	(123)	(110)	(108)	(111)	(99)	(127)	(113)	(121)	(117)	(114)	(114)	(114)
	その他地域向け	販売量 指数	(100)	(89)	(102)	(101)	(98)	(115)	(104)	(105)	(104)	(107)	(110)	(109)	(110)	(105)	(107)	(107)	(101)	(104)
	四輪触媒	販売量 指数	100	98	100	95	98	94	95	96	95	95	88	95	91	98	95	90	99	94
	半導体装置保護材料	販売量 指数	100	101	126	130	114	131	125	124	153	133	117	141	129	100	115	129	89	109
金属	亜鉛	生産量 千t	56	47	56	58	216	53	52	47	42	194	45	53	98	116	214	103	115	218

指数 ： 2024年Q1を100として表示

Copyright © Mitsui Kinzoku Co., Ltd. or its affiliates All Rights Reserved.

資料13ページの主要製品の動向をご覧ください。

・今回決算説明資料より、MicroThin™に続き、薄型基板内蔵キャパシタ材料FaradFlex™の販売数量も実数表示といたしました。

・銅箔事業について、MicroThin™は、半導体パッケージ基板ではデータセンターやメモリ基板用途が増加、光モジュール向けもAI向け需要急増で、PC・スマートフォン等他用途向けも含めて、当面、旺盛な需要が継続するものと見ております。こうした背景もあり、供給責任を果たすべく、10月30日に下期からの上尾事業所における生産能力増強前倒しを発表いたしました。AIサーバー向け電解銅箔VSP™も、旺盛な需要を背景に、下期に向け増量を見込んでおります。FaradFlex™も同様の状況です。なお、VSP™について、8月7日の決算説明会にて顧客認定遅れについて言及いたしましたが、現在、本件についての影響はございません。

・排ガス浄化触媒については、二輪向け・四輪向けとも、ほぼ前回予想並みの販売数量を見込んでおります。

セグメントの業績（１）　機能材料

探索精神と
多様な技術の融合で、
地球を笑顔にする。

（単位：億円）

	上2026 実績	上2025 実績	増減 (26-25)	下2026 今回予想	下2025 実績	増減 (26-25)	FY2026 今回予想	FY2025 実績	増減 (26-25)
■売上高	2,118	1,505	613	2,042	1,779	263	4,160	3,284	876
■営業利益	464	280	183	401	395	7	865	675	190
■経常利益	451	265	187	399	401	-2	850	665	185
※実力損益	379	242	138	390	375	15	769	616	153

※実力損益 ： 経常利益から在庫要因・触媒貴金属価格影響を除いたもの

（機能材料製品）		（主な用途）
銅箔		・高密度半導体パッケージ材料 ・プリント配線基板
触媒		・二輪車・四輪車排ガス浄化触媒
機能性粉体（電池材料）		・ハイブリッド車向けニッケル水素電池 ・リチウムイオン電池
機能性粉体（機能粉）		・各種電子部品
レアマテリアル		・ガラス研磨材 ・各種電子部品
セラミックス		・高温用窯道具、電子部品用窯道具 ・溶融アルミニウム濾過装置
薄膜材料		・フラットパネルディスプレイ
HRDP ※1		・次世代半導体パッケージ用キャリア

経常利益の増減説明

[上2025→上2026　　+ 187]

銅箔	+183	（MicroThin™・VSP™増販 他）
薄膜	+44	（在庫要因好転 他）
本部	-47	（事業推進コスト 他）

[FY2025→FY2026予想　+ 185]

銅箔	+237	（MicroThin™・VSP™増販 他）
触媒	-21	（貴金属価格影響悪化 他）
薄膜	+40	（在庫要因好転 他）
本部	-79	（事業推進コスト 他）

※1　2025年10月にHRDP事業を事業創造本部から移管

Copyright © Mitsui Kinzoku Co., Ltd. or its affiliates All Rights Reserved.

続いて、機能材料セグメントをご説明いたします。資料15ページをご覧ください。

・対前年同期経常利益は、上期にならび通期予想とも、銅箔においてMicroThin™、VSP™の増販が寄与しております。

・薄膜材料での在庫要因好転等もあり、機能材料セグメントの26年度経常利益の見通しは通期で850億円を見込んでおり、前期比で185億円の増益、前回予想比で70億円の増益となっております。

セグメントの業績（２）　金属

探索精神と
多様な技術の融合で、
地球を笑顔にする。

（単位：億円）

	上2026 実績	上2025 実績	増減 (26-25)	下2026 今回予想	下2025 実績	増減 (26-25)	FY2026 今回予想	FY2025 実績	増減 (26-25)
■売上高	2,115	1,612	503	2,275	2,155	120	4,390	3,767	623
■営業利益	157	177	-20	58	530	-473	215	708	-493
■経常利益	188	184	4	57	566	-510	245	751	-506
※実力損益	134	157	-23	89	397	-309	223	555	-332

※実力損益 ： 経常利益から在庫要因を除いたもの

経常利益増減分析

	上2025→ 上2026	FY2025→ FY2026予想
相場(亜鉛・鉛)・為替	45	61
T/C条件（亜鉛）	0	1
棚卸資産在庫要因	27	-174
持分法損益	28	-5
エネルギーコスト	-11	-31
(上記のうち、コークス)	(-4)	(-10)
その他※	-85	-358
合計	4	-506

2026年度年間損益感応度（経常損益）

			フルオープン	予約含む
亜鉛(LME)	±	100$/t	14.8	9.9
鉛(LME)	±	100$/t	2.3	2.3
為替	±	1yen/$	6.5	5.1

亜鉛TC条件

FY2025	80 $/t	
FY2026	85 $/t	

※その他の主な内訳

上2025→ 上2026	亜鉛製錬操業差 -13、亜鉛鉛製錬副産物 +25、 鉛原料構成差 -52、亜鉛鉛製錬コスト(大定修-20含む) -48、 銅製錬操業度差 -53、資源 +47
FY2025→ FY2026予想	亜鉛製錬操業差 +25、亜鉛鉛製錬副産物 -30、 鉛原料構成差 -99、亜鉛鉛製錬コスト(大定修-20含む) -59、 銅製錬操業度差 -145、銅製錬コスト(大定修-26含む) -25、 貴金属リサイクル -32、資源+20

Copyright © Mitsui Kinzoku Co., Ltd. or its affiliates All Rights Reserved.

次に、金属セグメントのご説明になります。資料16ページをご覧ください。

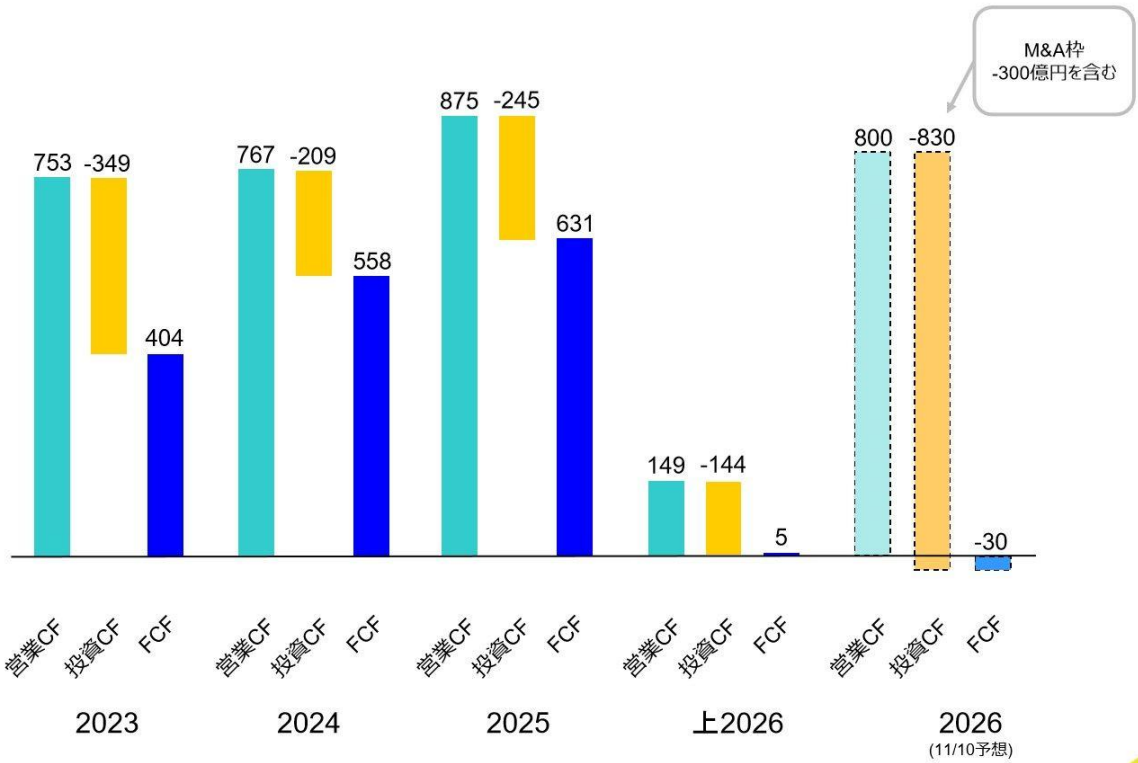
・26年度のLME相場について、亜鉛は前期より高い水準で推移しており、また為替も円安傾向で推移していることから、相場および為替影響額は対前期で上期は45億円、通期は61億円のプラスとなっております。一方、棚卸資産の在庫要因は、昨年度の在庫要因プラス196億円が剥落することから、通期で174億円のマイナス影響となっております。

・その他の要因として、対前期で上期85億円のマイナス影響、通期では358億円のマイナス影響となっております。こちらは、大定修の影響を含めた亜鉛・鉛事業のコスト影響や銅製錬事業の操業度差などによります。これにより経常利益は、対前期で上期は4億円の増益で188億円、通期では506億円の減益で245億円の経常利益となっております。

・また、金属セグメントの前回通期予想経常利益は265億円でありましたが、今回予想では、冒頭説明の通り、下期の銀相場想定を65ドル/トロイオンスから55ドル/トロイオンスに見直した結果、亜鉛・鉛製錬副産物差が拡大することなどにより、減益となっております。

キャッシュフロー

（単位：億円）



Copyright © Mitsui Kinzoku Co., Ltd. or its affiliates All Rights Reserved.

次に、キャッシュフローの状況について、19ページをご覧ください。

・26年上期は、高操業や金属価格の上昇に伴う棚卸資産増加426億円や、法人税等の支払190億円などもあり、営業キャッシュフローは149億円にとどまり、投資キャッシュフロー144億円のマイナスにより、フリーキャッシュフローは5億円となりました。

・下期に向けては、棚卸資産管理などに引き続き取り組み、営業キャッシュフローの改善を目指してまいります。

・最後に、10月30日に発表したMicroThin™の生産能力増強前倒しと、本日発表したマレーシアでの銅箔新工場建設の投資により、25中計で掲げていた2030年度の1,500億円という利益目標の、うち機能材料1,300億円の確実性が高まり、上振れも期待できると認識しています。

■質疑応答

【機能材料セグメント】
Q. マレーシアにおける銅箔新工場建設の投資総額約 1,900 億円について、資金調達をどう考えているか。
A. 当社は財務規律の観点から格付やネット DE レシオ、自己資本比率を基準に、デットキャパシティの水準を検討しており、現在の格付も踏まえると 3,000 億から 4,000 億ぐらいのキャパシティはあると考えている。1,900 億円の投資額はその中で対応可能と考えており、まずは営業キャッシュフローを優先し、不足分は借入金等によって充当していく。

Q. 銅箔新工場建設について、生産設備他約 1,440 億円の内容、投資決定の判断基準、減価償却年数を教えていただきたい。
A. 生産設備他は、表面処理設備、電解ドラム、電解槽等の投資がかなり大きく占める。投資決定にあたっては、一時的に ROIC が下がるものの 2024 年度の ROIC を下回るほどではないと見込み、十分採算が取れると判断した。EVA は、今回の投資によって着実に増加すると見ている。また、設備の減価償却期間は基本 8 年である。

Q. 銅箔新工場建設について、将来的な設備の拡張の余地はどう考えているか。
A. VSP™は今回取得する土地、建屋と、他の既存拠点も含めて 5,000 トン/月規模の生産能力を達成できると考えている。MicroThin™は製造工程の途中までは基本的に VSP™と同じ設備であるため、需要次第では MicroThin™に転用することは可能であり、どちらに投資するかは市況を見ながら判断していく。今回投資は 2027 年度までにまずは土地を取得して、それから建屋を立て、生産設備等の投資を進める。2033 年度以降に向けての検討は、2029 年から 2030 年ごろと見込んでいる。MicroThin™と VSP™の市況をどう判断するか、上振れするか下振れするかを慎重に見極めながら次の判断をしていく。

Q. 生産能力増強計画の 2030 年以降について、VSP™と MicroThin™の稼働率、需要の見通しを解説いただきたい。
A. VSP™について、かなり稼働率が高い、ほぼフル操業に近い販売数量の推移を期待している。MicroThin™について、稼働率はおおよそ 70%から 80%ぐらいのところが維持されると見ている。キャパに大きな余裕をもつのではなく、実際の需要の伸びに見合ったキャパを準備する計画としている。

Q. 機能材料セグメントの営業利益が、第 1 四半期から第 2 四半期で実力損益が 60 億円増益と大きく伸びている。背景について解説いただきたい。
A. 実力損益上振れの要因は主に銅箔で、まず一過性要因の 28 億円の影響がある。また、銅箔での値上げの浸透や販売ミックスの改善でマージンの好転が大きい。

Q. （決算説明資料）P.15 の機能材料セグメントについて、銅箔の経常利益が上期前年同期比で 183 億円増益となっている要因を教えていただきたい。
A. 販売関係から、MicroThin™、電解銅箔、FaradFlex™の販売数量の増減影響が約 55 億円の増益となっている。値上げ影響で約 35 億円増益、電解銅箔の平均販売単価差で約 40 億円増益、電解銅箔以外の販売単価差で約 15 億円増益となっている。コスト関係では銅価上昇による原料代悪化が約 40 億円、それ以外の変動費はほぼ横ばい、固定費と販管費は約 10 億円悪化。在庫関係では、銅価が第 2 四半期もさらに上昇したため約 35 億円好転しており、為替は営業外も含めて約 20 億円の好転、また、一過性要因として過年度売上精算による増益が 28 億円あった。

Q. P.15 の機能材料セグメントについて、銅箔の経常利益が通期前年同期比で 237 億円増益となっている要因を教えていただきたい。
A. 販売関係から、MicroThin™、電解銅箔、FaradFlex™の販売数量の増減影響が約 100 億円の増益となっている。値上げ影響で約 90 億円増益、電解銅箔の平均販売単価差で約 70 億円増益、電解銅箔以外の販売単価差で約 25 億円増益となっている。コスト関係では銅価上昇による原料代悪化が約 55 億円、それ以外の変動費は約 20 億円悪化、固定費と販管費は約 30 億円悪化。在庫関係では約 5 億円好転しており、為替は営業外も含めて約 25 億円好転、また、一過性要因の過年度売上精算による増益 28 億円を見込んでいる。

Q. 銅箔の過年度売上精算の 28 億円について補足いただきたい。
A. 過年度売上精算は、顧客との販売条件交渉を継続していた取引について、今回顧客との合意に至ったため過年度分も合わせて第 2 四半期の売上に計上した。

Q. P.6 の営業利益の上期実績と下期見込の比較において、銅箔の下期は上期に対し 4 億円の増益とあるが、MicroThin™も VSP™の増販を打ち消すマイナスの要素について解説いただきたい。
A.上期に銅価上昇に伴って在庫関係で利益が大きく出たことが影響している。下期は若干の損失サイドと見ており、在庫関係で約 30 億円の減益を見込み、コスト関係も下期に向けて少し悪化すると見ている。それらのマイナス要素と、増販やマージン改善のプラスを合計して、4 億円の増益を見込んでいる。

Q. 銅箔の値上げ効果について、年間で見ると銅価格や変動費、固定費のコストアップが大きいが、下期以降の値上げの必要性をどう考えているか。
A. 今回出したガイダンスには、MicroThin™は今年の 3 月に申し入れた値上げの効果まで、VSP™は今年の 7 月以降適用の値上げの効果までが入っている。ただし、下期に向けて更なる追加の値上げは足元で具体的に検討しており、お客様に対して更なるコストのご負担をお願いする可能性はあり得る。

Q. P.13 の主要製品の動向について、VSP™と MicroThin™のマーケットの状況、シェアなどで何が起きているか教えていただきたい。
A. VSP™について、前回決算時にご説明したマレーシア銅箔で顧客認定が想定より遅れていた影響はすでに解消され、非常に需要が好調な中で販売数量が上振れている状況にある。MicroThin™は、第 2 四半期は前回見込みに対し出荷の時期ズレ等で少し下振れているが、トータルで見て好調であることは変わらず、下期に向けて数量はさらに伸びを見込んでいる。特に PKG 向けのメモリ関係が非常に好調であり、光トランシーバー向けも好調に推移している。VSP™のシェアについて、当社がターゲットとしている HVLP 銅箔の高いカテゴリーで競合が当社のシェアを取っている動きは足元見られない。MicroThin™は、非常に製造難易度が高い製品であって量産品として作りきれている競合がいない状況は足元も変わっていないと見ている。

Q. HVLP4 のマーケットにおける自社のシェアについてどう考えているか。全体のマーケットが見えていないため、自社のサプライチェーンの中でシェアが把握できないのではないか。
A. 当社は全 CCL メーカーと取引しているわけではないが、カテゴリーの高い銅箔を使っている CCL メーカーは相応にカバーしており、そこでの取引において当社のシェアが実際に取られてはいないという見方をしている。
HVLP4 のような高いカテゴリーの製品は MicroThin™ほどではないが作るのは非常に難しく、安定して量産できる会社はかなり限られると当社は見ている。

Q. PKG 向け MicroThin™のうち、光トランシーバー向けの伸びと構成比を教えていただきたい。
A. 26 年度通期の PKG 向け MicroThin™の内数として、光トランシーバー向けは 70 万平米/月を上回る規模で織り込んでいる。25 年度の光トランシーバー向けは 10～15 万平米/月ほどであり大きく伸びている。